

抗酸菌症マネジメントの UP TO DATE ～基礎・臨床研究の成果を臨床現場に活かし、適切な医療を目指す～ オンライン学会総会～

結核研究所対策支援部保健看護学科
科長代理 座間 智子

2021年6月、名古屋において開催予定であった標記学会総会は、COVID-19感染拡大の影響で昨年に続きオンライン開催となりました。本学会・総会のテーマに示されるように、特別企画、シンポジウム、演題も含め、増加傾向にある非結核性抗酸菌症の診断・治療と対応の重要性に焦点が当てられていました。

一方、結核においては、結核が低蔓延化する状況の中での更なる結核対策強化として、XDR-TBの新規治療薬の開発、潜在性結核感染症（LTBI）に対してRFPを含む新しい治療指針、尿中LAM抗原検査法等の結核診断検査について最新情報の報告がありました。

さらなる低蔓延化を目指す方策として、一般演題発表、シンポジウムでは「外国出生患者」、「高齢者・ハ

イリスク者」の結核対策強化の重要性が強調されました。今回、私は「外国人結核の看護」セッションの座長を体験しましたが、外国出生結核患者の療養を支える通訳者に関する研究も報告され、多種多様な機関との連携が対策強化のカギであることが示されています。学会では、エキスパートセミナー（初学者のための寺子屋教室）も同時開催され、オンラインで参加することにより、より多くの基礎的な学びもできる利点もありました。

次回97回は、旭川が開催地です。COVID-19感染拡大が結核対策へ与えた影響や、結核対策をマネジメントした知見等、具体的な事例が示されることを期待しています。🐼